

「よい子 強い子 伊丹の子」

伊丹っ子



学校だよりNo. 27

令和5年11月17日

伊丹市立伊丹小学校

校長 磯田 かおり

☆ とっても幸せな気持ちになりました！お知らせくださりありがとうございます☆

11月9日の朝、地域の方から学校に一本の電話がありました。

子ども食堂で活動されている方の声が自治協議会のSNSに紹介されていました。

「車椅子のおばあさんが横断歩道を渡るのをずっと見守っていた伊丹小学校の中学年くらいの男の子が、おばあさんが渡り終わるの見届けて、うなずいて登校して行きました。

その子どもの様子に感動して、学校に電話しました。」

もしも困った様子があれば、力になるう必要なければそれでよし。と思う気持ちでおばあさんのことを見守り見届けた少年の優しい眼差しを想像し、感心しています。その様子を見守ってくださり、学校に連絡してくださった地域の方の温かいお気持ちにも心より感謝申し上げます。

伊丹小学校のオープン参観に行ったら、2人の女の子が「あっカレーのおばちゃんやあ。」と近寄ってくれ、その向こうには遠くから恥ずかしそうに手を振ってくれる男の子が一人。さらには、帰りの正門でママさんが、「いつも美味しいカレーやおかず、すごく助かっています。」と、声をかけてくださいました。

月一度だけのご縁が嬉しく、いい気持ちで帰宅しました。

<1%の力 幸せホルモンと絆ホルモン>

医師で作家の鎌田 實 氏によれば、人間のやる気や幸福感、絆やつながりを大切にする心には、下記のようなホルモンが大きく関係していることが、最近の研究で明らかになってきたそうです。

幸せホルモン「セロトニン」

笑顔や笑い、「わあ、きれい」「わあ、おいしい」と感じることで分泌され、幸福感を味わえると言われています。

絆ホルモン「オキシトシン」

誰かを幸せにしようとしたり、相手の身になったりする際に最も分泌されると言われています。優しく声をかけたり、荷物を持ってあげたりした時にもでるようです。

1%だけでも他人のことを考えたり、誰かのためになることをしたりすると、幸せで元気に生きられるのだそうです。

互いに笑顔で言葉を交わしたり、思いやりの気持ちで行動したりすることをほんの少しでも今まで以上に意識することで、ますます明るく幸せな気持ちで出会うことのできる伊丹小学校区にしていきたいと願っています。

学校評価にご協力いただきありがとうございました。また、様々な場面での教職員の努力を認め励ましてくださるお言葉もたくさんいただき、感謝申し上げます。全教職員が目を通し、今後には生かすために真摯に受け止めて分析するとともに、改善すべきことに取り組んでまいります。後日、結果をお知らせいたします。今後も保護者と連携して誠実に教育活動の推進に取り組んでまいります。